

国際的通用性検討作業部会での議論まとめ方針（案）

平成30年5月31日

1. 本作業部会の目的

制度検討特別委員会において、制度全体としての最終的な目標、目的となる1つの軸として国際的通用性を定め、現在の制度設計や課題整理がよいかを検討することとした。この検討の中で、技術士が国際社会の中で活躍するため、資格要件等の部分で何が今ネックとなっており、どんな制度が必要なのか、課題を明確にする必要があるとされた。このような経緯により、各国の状況や国内での国際的通用性への認識を調べ、国際的通用性の観点から技術士制度の課題整理を行うことを目的として、本作業部会が設置された。

2. 議論のまとめ方について

制度検討特別委員会で今期議論するとされている技術士制度の課題は以下の6つである。

- 技術士資格の国際的通用性
- 技術士資格の普及拡大・活用促進
- 継続研鑽（CPD）の在り方、更新制の導入
- 技術士補及びIPDの在り方
- 第一次試験の適正化
- 総合技術監理部門の在り方

「1. 本作業部会の目的」にも記載の通り、技術士制度の課題を国際的通用性の観点から整理するため、各国の資格やヒアリング等の調査を参考として、上記の各課題の問題点の整理や今後の方針を国際通用性の面からまとめていく。

※6つの課題のうち本作業部会の調査から意見が得られたもののみをまとめる。

3. 今後の調査等について

- ・計画していたヒアリング調査は今回報告したものですべてである。
- ・各国表については6月末のIEA総会等で情報を集める。
- ・その他必要な情報等があれば可能な範囲で随時調査を行う予定。

4. 今後の日程等について

5月31日（木） 第3回 国際的通用性検討作業部会



必要な調査の実施、議論及び調査に基づき検討報告（案）の作成

7月頃 国際的通用性検討作業部会における検討報告を作成し、制度検討特別委員会へ報告。